

Scout Voice ISHIKAWA

スカウトボイス石川



Vol.3

発行：ボーイスカウト石川県連盟
石川県金沢市平和町 1-3-1
石川県平和町庁舎内
発行責任者：野田 政弘
編集責任者：宮東 剛文
平成 28 年 3 月 4 日発行

Scout Voice

金沢第 12 団 BS タイガー班 吉村笙汰
昨年の 12 月 27 日（日曜日）、ボーイスカウトの活動で 1 日フリー切符を使って、1 日旅行をしました。使った切符は IR・あいの風 1 日フリーきっぷといい、IR いしかわ鉄道とあいの風とやま鉄道を 1 日乗り放題というものです。

出発は金沢駅で 6 時 52 分始発、普通黒部行きに乗りました。黒部駅に降りたとき、車内に切符を忘れた事に気づき、駅員の方に話すと車内に入らせてもらい、切符を無くさずにすみました。

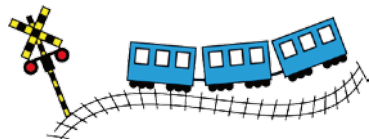
次に富山行きの電車に乗って東滑川駅で降り、魚津水族館へ行きました。水族館の中では、世界最大の淡水魚のピラルクやクエなどが元気に泳いでいました。特にトンネル型の大型水そうはとても迫力がありました。

次に富山市へ向かい、まず富山城に行きました。そこでは富山県の主な歴史を学びました。その後、科学博物館に行きました。博物館では富山県の地形や自然について、宇宙についてなど様々なことがわかりました。十分に楽しんで 19 時頃、金沢駅に帰ってきました。

今回は隊長の同行なしで初めて班員のみで行動しました。全て自分たちの判断で行動しなければならないので、自由である反面責任も伴うものでした。ですが、班全員で協力することができてとても良い経験になりました。次はもっと長い 2 日以上旅行を計画してみたいです。

IR・あいの風 1 日フリー切符：

<http://www.ishikawa-railway.jp/info/87>



石川県連盟主催 スノーフェスタ参加報告

2 月 7 日、県連盟プログラム委員会の事業としてビーバー・カブ向けにスノーフェスティバルを開催しました。当日は天気にも恵まれ 339 名の参加者が旧中宮温泉スキー場の駐車場を会場に楽しい 1 日を過ごしました。雪の王国ラリーでは、みんなの協力と頑張りで怪物が持ち去った春を無事取り戻す事が出来ました。

雪合戦も大盛況。カブ部門ビーバー部門それぞれ 3 チームが表彰されました。

<表彰チーム>

【ビーバー】金沢 2 団、加賀 3 団、金沢 21 団 & 松任 1 団混成

【カブ】金沢 2 団、金沢 11 団、津幡 1 団

お昼には特製「雪の王国なべ」でお腹も大満足！

当日参加頂きました皆様、誠に有難うございました。また、準備に当日運営にご参加頂きましたワーキンググループの皆様、並びにご協力頂いた全ての皆様、誠にありがとうございました。（プログラム委員長 東本 晃典）

金沢第 2 団ビーバー隊 新谷松直生

- ①雪合戦で優勝できた事が嬉しかった。
- ②ソリが人気で、滑りたかったけど、ボクは一回も滑れなくて残念だった。
- ③豚汁が凄くおいしかった。
- ④仲良しの友達が風邪でこれなかったけど、隊員が（ひろの隊員だそうです）沢山遊んでくれたから楽しかった。



10月12日(月)開催
金沢地区 カブ・ビーバーのつどい参加報告

「キゴ山祭り」

金沢第1回カブ隊 小坂 眞生

キゴ山に小さな動物園がやってきました。ポニーやひよこ、モルモット・・・ほかにもたくさんの動物とふれあいました。ひよこを両手で持ったり、ハムスターにさわったり、ふつうの動物園ではできない体験をさせていただきました。

手作りできるブースもありました。タイルコースター、風車づくり、プレートをつくれるコーナーでは私は、タイルコースター作りに挑戦しました。前に一度、作ったことがあるのですが、それとまったく印象のちがう、温かい色の春らしい物にしました。すごく実用的な物で、使っています！カブ隊としての大切な思い出になりました。



「キッズフェアは楽しい」

金沢第1回カブ隊 近江 花音

私が、ボーイスカウトで行ったキズナフェアの感想を書きます。キズナフェアではふれあいどうぶつえんやものづくりたいけんなどがありました。ふれあいどうぶつえんにはハリネズミやヘビなど、めずらしいどうぶつがたくさんいました。ハリネズミをさわろうとした時トゲトゲしていてこわいなあとおもったけど、勇気を出してさわって見たらぜんぜんいたくなくなかったです。ハリネズミの赤ちゃんはピンク色だったけれど、大きいハリネズミは茶色でした。

次に、ものづくり体けんをしました。コップなどをつくることができました。わたしはコースターを作りました。わくの中に、いろいろなタイルを入れてつくりました。きれいにできたのでうれしかったです。また、やっていって行ってみたいです。



金沢第22回VS隊、徳田君の作文が平成27年度「税に関する高校生の作文」国税庁長官賞を受賞しました。おめでとうございます。

『今こそ目指したい』

金沢第22回VS隊 徳田 駿

日本の「税」というものは弥生時代に誕生した。奈良時代には租・庸・調・雑徭と整備され、時代の変化に伴って税の形は何度も変化した所を見ると、税は社会を映す鏡とも言える。その税は今も税金としての形をとり、最近ではインターネットを利用した納税方法「e-Tax」も普及した。このように時代と共に進化を遂げてきた日本の税であるが、それにはやはり光と影のようなものを僕は感じる。

僕は基本的には税に対して良いイメージが強い。例えば、特に税の良さを身近に感じる場面には学校が挙げられる。高校に入学してから義務教育ではなくなったが、僕達の学校は文部科学省にスーパーサイエンスハイスクール(SSH)、スーパーグローバルハイスクール(SGH)として認定されたことによって、国からの様々な援助を受けることができおり、通常の授業では体験できない充実した学習ができています。この学習環境を支えているものこそ、税金である。日本国民が協力して生んだお金にありがたく思うのは当然であるし、そのようなお金であるからこそ、僕は真剣に学習するべきと思える。

また、僕は弟にも税のイメージを尋ねた。彼は「税は皆が一丸となって社会を支えていることを表すから、とても良いものだと思う。」と言った。僕もその通りだと思う。無意識にしろ、僕達はいつも税を納めているし、そのお金は社会で役立っている。もしかしたら僕の払った税金で造られた道路を誰かが便利に思っているかもしれないし、もしかしたら人の命を救ってさえいるかもしれない。そう思うと、僕は日本国民として税を納めていることが誇りに思われる。

しかし、暗い側面を散らつかせるのも、税の持つ顔である。

例えば最近話題になったのが、新国立競技場の建設計画のやり直しだ。この白紙化によって五九億円の損失が生まれ、国民の納めた税金が無駄になった事は大変痛々しかったが、同時に納税者が税金の使い道をしっかり知っておく事の大切さを思い知ることにもなった。

他にも、納税しない人がいるのも事実である。テレビでも言われるように、現在日本は税収入が不

足している。その税収入が消防や医療、そして人々の生活や命に関わっている以上、やはり脱税は日本の改善すべき現状だと思う。

「税は社会で生活するための会費だ。」と言うように、税の収入があってこそ、日本は日本らしく社会を整備でき、国民は安心して生涯をこの豊かな国で過ごすことができる。税収入が不足している今であるからこそ、僕たちはしっかりと税について理解し、すべての人が国民として胸を張って税を納められるような国にしていくべきであると思う。

Supporters Voice

金沢2団さんよりスノーフェスティバルの報告が届きましたので紹介いたします。



☆廣野補助者より

ビーバー達はみんな雪遊びを楽しんでいましたし、帰りの車中でも楽しかった！と喜んでいたので良かったですと思います。気になったのは昼休憩がちょっと足りなかった（昼休憩に入るのが遅れた）事とウォークラリーの導入部分が気付いたら始まっていたのでビーバー達が注目していなかった事です。始まりの合図があると良かったと思います。

☆谷村さん母より

車の誘導から始まり、多人数を手際よくさばいていることに感心しました。子供達も、プログラムをとても楽しんでいました。雪合戦の陣地内に作って頂いた壁は、面白くて良かったと思います。王国鍋とみかんゼリーは、とても美味しかったです。色々とお世話して頂いた皆様、ありがとうございました。

☆向野さんより(見学体験の方)

子供たちは雪で思いっきり遊べてとても楽しかった。またみんなと雪合戦したいと。いただいた雪だるまのマスコットが気に入ったようで大切にしています。付き添いしていた祖父からは、子供たちの安全に気を配りながら付き添ったが、ケガなく終わって良かった。運営側は準備から大変なの

では？とのことでした。

☆澤井さん(スカウト保護者も参加)より

雪と穏やかな天気に恵まれ、無事にスノーフェスタに参加出来ました事、心より感謝申し上げます。会場に引率として参加してみて、子ども達が楽しめるよう細かく、そしてさりげなく段取りや手配してある様子を拝見して、親としてはただただ頭の下がる思いでした。大勢の人数を受け入れる準備、さぞ大変だったのではなかろうかと思います。三グループ入れ替えでの活動もスムーズでしたし、身体と心も温まる食事最高でした。何より子ども達の嬉しそうな笑顔と笑い声が雪山にたくさん響いていました。自分たちだけでは到底味わえない楽しみをさせていただけたと、子どもはじめ親自身も感じています。また子ども達の結束ぶりもかいまみえて頼もしかったです。たっぷり山の空気と雪を楽しませて頂きました。未就学の弟ももちろん参加させていただき、大喜びでした。改めて、運営スタッフの方や参加者皆様にお礼申し上げます。

ありがとうございました。

☆隊長より

とても楽しい1日でした。ビーバースカウトは熱やインフルで半数が欠席でしたが、参加のスカウトは雪ならではのプログラムを満喫して楽しさで元気を最後まで保て感謝します。私達はCグループで、最後に雪合戦で盛り上がり終わり、とても良い印象が残りました。見ていると、他の団のスカウトと合戦の形の交流を通し、自団の仲間が団結したり、2回戦から知恵が働いたり、とてもいい体験だったと感じます。

もうすぐ開会式、閉会式といった時間の待ち時間が少し長いかなと感じましたが、雪山や、階段など、会場作りから温かいめった汁まで、本当に考え尽くされていてすごいと思いました。

「ありがとうございました。」



Leaders Voice

自己研修

金沢第1団 出島信直

昭和14年(1939年)の春 金沢東別院の本堂は真暗、1本の蠟燭の炎が揺れている。私は静かに炎に向かって歩くと、誰かが立っておられました。低い小さな声で「今から貴方の入隊式をいたします。誓いを・・・」「私は神聖なる信仰に基き名誉にかけて次の3条の・・・」と誓った。「入隊を認めます」と言われ、私は憧れの金沢大谷健児団*少年隊の仲間になれました。指導者の方が大きな風呂敷包を持ち、私を本堂の隅に連れて制服に着替えるよう指示されました。早速包みをあけ、着替え、班の列の後尾に立ったのです。(制服・ハット・チーフは先輩から譲られることに)

今、あれから75年程を振り返ると、入隊後2年目、先輩の班長・次長は年長隊に上進され、6年生の私が班長に任命されたのです。その任務の内容が判りませんでした。頼りにしていた副長さんは卒業他県就職、隊長さんに聞けば「みんな仲良く遊びなさい」との返事。団長さん(幼稚園園長)に相談した結果「どこかの隊を参観しては・・・」「野町の善隣少年団**へ行きなさい。団長に話しておく・・・」とのことで、次長と二人で善隣少年団の隊集会の日に参観しました。歌で始まり、2個班に別れ手旗・結索の訓練、途中、キムス、パントマイムが入り、歌で終わりました。楽しい隊集会に参加し、私たちの隊集会も参考にし進化させようと思った2時間でした。帰るとき指導者の方が「このプリントを参考にしなさい」と破れかかった綴りをくださいました。(中身は今のハンドブックのようなもの)

団に帰って団長さんに報告しました。団長さんは「このプリントは私も持っている」と書斎から持ってこられました。封筒に入った新しいものでした。「やった!!」の歓声が上がり、次長に渡しました。団長さんは「必要なところは謄写版で印刷して班員に分けなさい。歌は幼稚園の先生にお願いしましょう」と言われました。先ず班集会で善隣方式を取り入れよう。隊集会までは考えませんでした。こうして私の細やかな研修のスタートが切られたのです。

謄写印刷は幼稚園で習い、器具・原紙は団長さ

んが持ってこられました。謄写原紙をヤスリ版の上で、鉄筆で文字を書くのです。簡単に考えていましたが大変で、小さな文字・絵・図を書けるようになるまでかなりの時間かかりました。結局は間に合わず、班全員でプリント綴りをもとに調べ合い、年長隊の先輩に野営実技を教わり、学校で保健の先生に包帯の巻き方・血止め、幼稚園の先生に歌を習い、結索法を知るために富山商船学校の近くの本屋さんへ本を買いに行きました。得た知識はお互いに交換し、各自ノートにメモして自分たちで自分流の教本を作ったのです。

わが班は、団杖操作・パトローリング・読図・シルバーコンパス・野帳・炊飯は副長に教わり、かなり自信を持っていましたが、綴りを調べていくと研修の内容の浅さにガックリしたのです。

班長の2年間は、学校の勉強を留守にして、少年団の知識習得・実技練習に力を注いだのです。75年間で1番自己研修した時期でした。戦後の指導者研修会のプリント作成の手伝いをしたのもこの期間の自己研修の結果だろうと思います。三輪谷団委員長(初代県コミ)が各種研修会で配布した「隊長資料」をまとめ、平成5年「草鞋の紐」小冊子を編集。創立60周年記念として印刷し後輩に配布する手伝いが私の自己研修の最後のまとめだったと思います。私は素晴らしい先輩から「見て覚え 実践しなさい」の一言。多くのことを無言で指導されたことに感謝しています。

謄写印刷の技術は就職後大変役にたち、2色刷りも出来るようになりなりました。また、最後まで苦手のモールスは平成15年アマ1級合格で70字/分達成したのです。

昨今、日連がスキルトレーニングを大きく取り上げています。日連が! 何故か? 指導者は忘れていませんか。忘れてしまったのです。誓いをたてて??指導者になったのです。「私は名誉に・・・」「私は」と言ったときには、私独りにかかわる宣言なのです。ですから宣言した以上、自主・自発 自分自身で実践するしかありません。自己研修の大切さ必要性を再認識し、指導者としての責任を持ち、役務を全うしてください。スカウト達が待っています。楽しいプログラムを!! 期待しています。



*金沢大谷健児団は金沢第1団

**野町善隣少年団は金沢第2団